



世界の終わり

全作品と講評

www.columnland.net

「あいつのせいで俺は
こんなに廃れてしまっ
たんだよ！」鉛筆はシ
ヤープペンシルの出現
をかなり恨んでいた。

「あいつのはびこる世
界なんて消えてしまえ
ばいいんだ！」次の日
。雨が降ってきたと思
ったら、降ってきたの
は、鉛筆だった。降っ
てきた鉛筆が刺さって
、死傷者が多数続出。
たけのこが生えてきた
と思ったら、生えてき
たのは鉛筆だった。鉛
筆が足に刺さる事件が
頻発。今この世界はシ
ヤープペンシルを恨む
鉛筆によって、終
わりを迎えよ
うとして
いた。
。

SEKAI NO OWARI

皆さんは、日本に、『SEKAI NO OWARI』というバンドが存在するのはご存じだろうか。音楽を好きな人にとっては「知っていて当然だろ。」といわれてしまうが、あまり音楽を聴かない人にとっては、「なんだ。その変な名前のバンドは。」といった感想を抱かれてしまう。そのくらいの、ぱっとしない知名度のバンドである。

この何とも奇妙なバンド名は、リーダーの深瀬慧が、「色々上手くいなくて、自分にとって世界が終わったような生活を送っていた頃に、残されていたのが音楽と今の仲間だったので、終わりから始めてみよう。」という想いを込めて、日本語表記で、『世界の終わり』と名付けたことが始まりである。その後、2011年に現在のアルファベツト表記の『SEKAI NO OWARI』に改めた。

メンバーは、4人で構成されている。リーダーでヴォーカル担当の深瀬、ギター・ヴォーカル・コーラス担当の中島真一、ピアノ・キーボード担当の紅一点である藤崎彩織、そして、奇妙なピエロのお面をかぶったDJ担当のLOVEの4人である。

彼らの魅力は、「暗い内容の歌詞」を「明るい曲調」で歌うことによって、不思議な世界を生み出していることにある。また、深瀬の変声していない少年のような声が、歌詞・曲調と見事なまでに融合して不思議な感覚を与えてくれるのである。

ここまで彼らのことを紹介してきたが、やはり、字面だけでは彼らの魅力を伝えることは不可能なので是非とも、一人でも多くの人に彼らの音楽に触れてほしいと思う。しかし、そこで問題になってくるのは現在の日本の音楽業界である。最近の流行を考えると仕方ない部分もあるが、どうしても『SEKAI NO OWARI』のように、実力だけで勝負しているアーティストよりも、AKB48をはじめとする女性アイドルグループや、嵐をはじめとするジャニーズ系アイドルグループ、近頃ではKARAや少女時代をはじめとした韓国アーティストが、バラエティー番組などをうまく利用し、音楽そのものの以外の魅力によって現在の音楽業界を支えているように感じる。現在の状況が良いととらえるか悪いととらえるかは人それぞれだと思うが、この状況が続く限り、『SEKAI NO OWARI』のような実力勝負のアーティストたちが世間に触れられないまま終わってしまう可能性を否定できない。なので、日本の音楽業界はもっと努力をしていくべきだと思う。実力派アーティストの世界を終わらせないために。

きょうの運勢

師走も近いころ、私は友人に勧められておみくじを引く。

ガラガラガラ・・・

さあ出た、九十七番！

渡された紙を見る

第九十七番 凶

霧がかかったように先が見えないことでしょう

水の上を歩くように、自信のなすことは危なっかしいでしょう

流れる雲のように方向が定まらないでしょう

水面に映った月がわからないように障りの多いことでしょう

運氣が衰えて食い違いやありもしない無実の災難を受けることがあります。望みごととはやめて時を待つべきです。

○病氣は完治しません。○悦びごとはありません。○訴訟、争いごととは負けます。○待ち人は来ません。○望みごととは叶いません。○失物は出ません。○縁談、旅行、移転はみな悪いです。

うそつ・・・こんな悪いものが出るなんて。痛恨の一撃。何もいいこと書いてないよ。お正月のおみくじでは末吉って言ってたじゃないか。考えてみると九十七というのは苦難を想像させなくもない。

辺りに目をやるとまるで私の心を表すように暗くなっていた。まだ、こんな時間なのに。

そんなことを思いつつと空を見上げる。夕焼けは赤くきれいだが黒い入道雲が空を広く覆う。まるで、世界が焼き払われて煙を上げているようだ。心と視覚で世界の終わりを感じつつ私は今日を生きる。

私は5年に一度開かれる某国際ピアノコンクールに向けて練習を重ねていた。コンクールがあるのは2年後、つまり自分がこの大学を卒業する年だ。そこそこの成績を修めてきた私は大学生活の集大成として、また卒業後プロとして活躍するためにこのコンクールに懸けていた。練習を重ねていたある日、小惑星がこの地球に1年以内に衝突するという俄には信じられないNASAの発表があった。

人々は最初、こんなふざけた話を勿論信用しなかった。だが連日どのテレビ局も新聞もネットも狂ったように「地球滅亡」を取り上げた。そのたびに人々は落ち着きを失っていった。途切れることのない車の渋滞、鳴り止まないサイレン、逃げ場を求めた人々で道路は溢れかえった。事態は加速度的に悪化し、食料を求めた人々による略奪に加え、殺人、強盗など、世界の治安はみるみるうちに悪くなった。

そんな嘘のような話を断固として信じなかった私も世界が崩れていくのを感じた。それは私の家が強盗にあり、動かなくなつた両親が帰宅した私の目の前に横たわっていたからかもしれない。いつの間にか私の生活からはピアノどころか何もかもがなくなっていた。学校に行くこともなく部屋に引きこもり、時折狂ったように自分の手首を切りつけた。

そんな絶望にくれている中、1階のリビングからは絶えず空気の読めない底抜けに明るい曲が流れていた。弟だ。2つ年下の彼は、来年私と同じ大学を受験する予定だった。内向的だが努力家の彼はいつもピアノの練習をしていた。

私は正直苛ついていた。こんな状況になつてまでピアノを弾ける彼の精神が分からなかった。遂に耐えられなくなつて、階段をかけ下りて弟に詰め寄つた。

「明日世界が終わるかもしれないっていうのに、よくそんなのうのと練習を続けていられるわね」

私に気づいていないのか、彼はこちらには目もくれず同じフレーズを壊れた蓄音機のように繰り返していた。その時私の中で何かが切れた。気づいたら自分の拳をピアノに叩きつけていた。

「なんでまだピアノを弾いているの？明日にはこんな生活もなくなつちやうかもしれないだよ！？」

私は泣いていた。すると彼はきよとした顔をしてこう言った。

「なんでって、僕にはピアノしかないから——明日世界が終わつても終わらなくても、僕はピアノと心中するような人生を歩むことを音大を受験しようと思つ

た時、いや、僕がピアノを始めたときからもう心に決めていたんだよ。僕に今できることは、シエルターを買うことでも、安全と言われた土地に引越すことでもない」

「でも、そんなのもう無意味になるじゃない。練習なんて虚しいだけだよ」

「いやだから僕にはピアノしかないし、そもそも選択肢が——」

「だから！そんなことしたつて地球は終わるんだよ！？コンクールだつて開催されないし、お母さんたちだつて戻つてこない！ピアノなんてあつても意味ないよ！」

「じゃあ姉さんはなんで生きているの？」

そ、それは——答えに窮する私に弟は続けた。「地球が滅亡するからピアノを弾いても意味がない？それはどうせ寿命で人間は死ぬのだから、音楽を極めても意味がないと言っているようなものだ。僕は最期くらい、沢山の人からスタンディングオベーションをもらうような、そんな演奏がしたいんだよ。自己満足だつていいじゃないか。死んだように生きるくらいなら、明日も知らないような馬鹿でいた方が楽しいよ。僕は姉さんみたいな才能はないし、勉強も運動もできないけど、唯一ピアノだけは、母さんたちが喜んでくれたんだ」

そういつて彼はまたピアノを弾き始めた。茫然とする私の隣で、彼は美しい旋律を奏でる。

これは——彼はモーツアルトの2台ピアノのためのソナタのセカンドを弾いていた。私の大好きなこの曲を、彼は先程からずっと弾き続けていたのだ。

なんでこんな時にきれいな音が出せるのか——よく見たら彼の椅子の周りにはびりびりに割かれた楽譜が落ちていた。辛いのには私だけではない。でも彼はまだ、まだピアノを弾き続けている。

さわやかな春風のような旋律を聴いていると私の中に溜まっていた涙が少し消えた気がした。

「一緒に弾いてもいい？」

「え？でもこれ2台ピアノの曲だよ？」

「良いよ、私が適当にアレنجして弾くから」

渋い顔の弟を少し横に押しやって、私は彼の隣で鍵盤の右のほうでファーストを弾き始めた。無理なアレنجのせいとか、手がよく接触する。でもそれを厭わずに弾く弟の顔には笑みがこぼれていた。

私はこの時間がいつまでも続けばいいと思った。

『しあわせは音符のかたち』

街頭アンケート実施！「もし世界が終わるなら？」

10代未満の回答「なし」

泣き叫ぶ子が一番多く全く話になりませんでした。

10代の回答「いやだ」

別にどう思うかなんてことは聞いてませんが。

20代の回答「大切な人と最後を過ごす」

こういう回答を待っていました。若いっていいですね…。

30代の回答「いつもと変わらず過ごす」

働き盛りの30代。彼らにとつては最後まで働くのが幸せなのでしょう。

40代の回答「残ってるお金で飲む」

仕事にストレスを感じるようになる40代。最後くらいは楽しみたいようです。

50代の回答「よろこぶ」

会社から邪魔な存在としてあつかわれ始め、毎日がこの世の終わりのような50代。その気持ち、わかります。

60代の回答「眠る」

どういう意味で眠るのかはわかりません。

70代以降の回答「なし」

質問を聞き取ってもらえず中止となりました。

15年の言葉

妻が死んだ。世界は、終わらなかった。

彼女のいない世界でも毎日日は昇り、電車は人を運び、時間は何も言わずに淡々と流れている。巨大隕石が落ちることも、いきなり氷河期が訪れることも、核で人類が滅ぶこともなかった。何一つ変わらなかった、僕自身さえも。悲しんでも、苦しんでも、嗚咽しても、日常は何の変化もなく訪れてくる。15年前の僕には想像すら出来なかった世界で僕は生きていく。

15年前、僕は妻に会った。僕は11歳で、彼女も11歳だった。その頃の僕はただの悪ガキで、世界なんか知らず、ただ自分のことで精一杯だった。彼女を大事にしたいと思いながら彼女を傷つけたりした。彼女がなくなる瞬間、世界も終わるだろうと思い込んでいた。彼女の身の不幸を呪っていた。

僕は少しだけ大人になった。妻のおかげだ。彼女だけではない。彼女の主治医だった野暮医師、病院の看護士さん、そして親友達のおかげだ。彼らがいてくれて、僕は妻の死を受け入れることができた。

世界の終わりを望むことなく、彼女の世界の終わりを受け入れられた。

15年間撮ってきた妻の写真が貼られているアルバムを見ながら、僕は彼女に話かける、15年前とは違う、15年間育てた言葉を。

「これからおまえのそばにいるよ」

そして彼女が残してくれた、もう1つの小さな世界を起こしに行く。

「早く起きて朝ご飯べよう、父さん会社に遅刻しちゃうよ」

僕たちの世界はまだ、終わらない。

僕らの世界は今はまだ、未完成だ。
ゆつくりと、ひとつずつ、出来上がってゆく。

できあがった太陽は、熟れ切ったオレンジのような橙。
できあがった空は、燃えるリコリスのような赤。

だけど、何箇所かはまるで切り取られたかのように真っ白な部分があるんだ。
でもね、僕は知ってるよ。

これからできあがるであろう雲は、少女の頬のような淡いピンクで、
海は、それら全ての色を受け入れて、なんともいえない深い色になっているのが美しい。

なんで知ってるかって？

それはね、何度も完成した世界を経験しているから。

だからできれば、この世界は完成しないほしい。

完成してしまったら、この美しい世界は、崩れてしまうから。
もののみごとになくなってしまいうから。

最後の欠片が埋まったとき……僕は……

「そろそろご飯の時間だから片付けなさいー」
「でもいま出来上がったばっかなんだよー」
「また最初から作ればいいでしょー！」
「……はあい……。」

僕の世界は一瞬で崩れ去った。

GIVE ME NOT ONE PIECE,
BUT ONE PEACE

西暦二××年×月×日、日本の大予言者である野須虎のすゐら 情無須だむすによって、宇宙から飛来する

隕石によって『世界の終わりが始まる』と予言されていた。NASAによって予言の日当日に隕石が地球に落下すると発表され、世界は一時大混乱したが、隕石が地表に落下する際にはわずか半径2センチ程にまで小さくなるであろうとの発表から世界が落ち着きを取り戻して数日、予言の日に隕石はアメリカ大陸の砂漠に落下した。NASAの発表通り落下の際には地球に何の影響も及ぼさず、世界中が安堵した。世界の終わりが始まっているとも知らずに。

アメリカの某有名大学によって隕石が回収されて数日後、悲劇は起こった。隕石の研究を行っていた研究員全員が謎の変死体で見つかったのだ。死亡した研究員たちの死体には共通点があった。みな腹部が破裂し、自らの血の海の中に倒れる形となっていたのだ。しかし悲劇はそこでは終わらなかった。さらに二日後、その大学の他の研究員や学生、また最初に死亡した研究員の身内や関係のある人物たちが次々に死亡していった。死体には相変わらず同じような共通点が見られ、その報道は世界に瞬く間に広まった。しかし謎の変死事件は留まるところを知らない。次の日には大学の周辺一帯、数日後にはその州全体、一週間後にはアメリカ全土で次々に死亡者が現れ始めた。世界の研究機関ではアメリカ全土の隔離を行う見通しが立てられていた。そんな中、アメリカから海外に出た人間が持ち込んだウイルスによって遂には世界中で被害者が始まる。隕石が飛来してから今日で二十七日、既に世界の人口は半分になったとも三分の一になったとも言われ、世界はただただ人類の絶滅を、指を咥えて見ているほかなくなった。私のいる日本でも勿論被害は拡大しており、昨晚、私の父と兄はウイルスによって病死した。報道で症状を聞いていたが、実際に自分の目で見るのは初めてだった。腹部の下方を抑えて激痛を訴え、破裂しそうな痛みだと泣き喚く家族を、私は果然と見ていることしかできなかった。私も今日にでも死ぬのだろう。もはや恐怖や絶望すら感じなかった。そのときだ。天井を見つめ、ベッドに横たわっていると、腹部の下方に猛烈な激痛が走った。腹部下方がふくらみ、破裂しそうな猛烈な痛みの中に体が力む。そのとき、死にたくないと感じたがそれと同時に早く楽になりたいと感じた。もう無理だ、諦めよう、と力を抜いた瞬間、私の腹部は破裂し、私は自身の体からあふれ出る生暖かい液体の中に沈んでいった。先ほどまでの痛みが信じられないくらいに体が軽かった。

「死とはこういうものなのか、案外心地いいんだな……。」
そうつぶやいた瞬間、意識が途切れ……。

私「そこで目を覚ましたんです。」
母「言い訳はいいからさっさと布団洗って干しなさい!」

たのしかった

つらいこともあった

わたしにとって

冬は彼との距離を縮める季節

糸で結ばれた私たち

はなれていてもお互いを想い

いっしょにいる時も想いあった

かなしい時も励ましあった

世田谷での見慣れた風景

のんびりと、二人で歩いた場所だった

けど、その景色は何かが変わった

だって、あなたがいらないから

人との別れはこんなにもつらい

二人きりでいられた

とても幸せだった

たくさんの思い出

なくなった時、あなたは温かな表情をしていた

あなたがいなくなってもこの恋は一生終わらない

『セカイ系』

近年、ライトノベルや漫画、或いはゲーム等で度々目にするようになったジャンルの一つである『セカイ系』について述べる事にする。

『セカイ系』について筆者なりの見解を述べるにあたり次の言葉を用いるが、あまり一般的な言葉では無いため予め意味を説明させて頂く。既知の方は読み飛ばしても構わない。

『厨二病（中二病）…ちゆうにびょう』とは、主に思春期の或いは自意識過剰な若人に患者が多く、特に中学校二年生辺りで重症化する事の多い精神病であり、通過儀礼の一種だと位置付ける意見もある。症状として、妄想を行動に移してしまい周囲から見ても痛々しい言動をしてしまったり、反骨精神旺盛な——ロクナ——生き様を夢見て規則を守る隣人を蔑む、或いは盗んだバイクで走りだしたり夜中に後者の窓を叩き割ると言った妄想をする等のとても痛々しい言動をする例が一般的に知られている。細かく分類すると『邪気眼系』や『ワナビ系』などと異様に細分化されてしまうが、『自意識過剰だっったり周囲から見ても痛々しい言動をする、或いは大人になってから思い返すと恥ずかしくて身悶えてしまう様な黒歴史とも呼べる言動を現在進行形でしている人』が患者だと考えてもらえれば大体あつて。

『セカイ系』とされるジャンルの作品として、GKMAX制作のテレビアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』や、角川スニーカー文庫から出版されたライトノベル『涼宮ハルヒの憂鬱』、小学館から出版された漫画『最終兵器彼女』等が度々あげられる。まずは、『セカイ系』の成立について述べようと思う。セカイ系という単語は、2003年10月下旬頃にネット上で使われ始めたと言われている。使われ始めた当時は、「使い始めた人物が勝手に使っているだけで特に意味はない」或いは「一人語りの激しい作品に対する揶揄」、「そういった作品の特徴が、語り手の了見を『世界』と誇大な言葉で表す傾向にある」とされていた。また、「一人語りの激しさ」が前述した『エヴァンゲリオン（略称エヴァ）』に顕著に表れていたこともあり、セカイ系の作品を『エヴァンゲリオン症候群』や、『エヴァ系』などと呼ぶ事もあったようだ。その後、明確な定義が無いままに名称だけが独り歩きした結果、様々な解釈がされる様になった。

その中から一つの解釈を挙げてみようと思う。東京工業大学世界文明センター特任教授の東浩紀氏の述べた事によると「主人公（ぼく）」とヒロイン（きみ）を中心とした小さな関係性（きみとぼく）の問題が、具体的な中間項を挟むことなく、「世界の危機」「この世の終わり」などといった抽象的な大問題に直結する作品群のこと」がセカイ系であるとし、代表作として前述した『最終兵器彼女』を挙げた。つまりセカイ系とは世界戦争や人外による侵攻といった「世界の危機」に際して、国家や国際機関等の「具体的な中間項」即ち「社会領域」がほとんど描写されることなく主人公等の行動や危機感が「世界の危機」に直結する様に書かれた作品等を指し、「方法的に社会領域を消去した物語」はセカイ系の一つの特徴とされた。つまり、「厨二病の主人公が世界や社会のイメージが持てないまま思弁的かつ直観的に「世界の果て」と繋がつてしまう様な想像力」で成立している作品であると解釈できる。

ここで前述した『涼宮ハルヒの憂鬱』について触れてみようと思う。これは2003年9月に第一巻が出版されたライトノベルで、2006年4月よりテレビアニメ化までされたにも関わらず作者が物語を中途半端な状態で四年以上放置し、その間にメインヒロインの声あてを務めたマルチタレントが失言やスキャンダル等の度重なる不祥事があつたためにいつしか熱狂的なファンが離れて行ったためにエヴァとは異なり時代を作れなかった作品である。厨二病な主人公が高校で出会った涼宮ハルヒという厨二病の少女と出会う所から物語は始まる。この涼宮ハルヒという少女は『世界を自分の好きなように改変する能力があるが、自覚していない』という設定があり、主人公はそんな彼女に振り回されながらもリア充な高校生活を送っている。つまり、主人公がその気になれば涼宮ハルヒを誑かす事で如何様にも世界を改変する事ができるのであるが、如何せんチキンなため現状維持しかできていない。

セカイ系とは、厨二病な主人公がよくわからないうちに世界の行く末を左右できてしまう事になる、というのが殆どの作品に共通しているように思われる。筆者としては、その「よくわからない」というのが社会や未来へ対する不安であり、気づいたら大人になっている事に対するカタルシスを得る事ができる、そんな魅力がセカイ系の作品が持っているのではないかと感じてゐる。

最後の音

誰もが周りを煩わしく思っていた世界

その世界が終わり

そこに住んでいた人が誰も居なくなったとき

誰もが望んでいた世界がやってきた

その時、世界は静かだった

みんなが望んでいた静寂があった

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	無題（鉛筆）	8 pt	4 位	3 sp
		久しぶりのレイアウト作品。待ってたかたも多いのでは。 鉛筆が空から降ってきたり、ぽこぽこ生えてきたり、楽しい空想に爆笑です。文章もさくっと情景だけを伝えてインパクト大でしたね。最多特別賞受賞です。おめでとう！ていねいな手仕事、おつかれさま。 特別賞：先端恐怖賞 from R 班（鉛筆さん怖えーっス!!）レイアウト賞 from T 班（レイアウトが良かっため）レイアウト賞 from U 班（ギザギザまでちゃんと入れてるから）		
02	SEKAI NO OWARI	4 pt	7 位	1 sp
		正統派粹入ります。 ほんとにあるんですね。実在のバンドへの愛着をしっかりと音楽業界批判へとつなげた構成力が光ります。 ただ、アイドル v s 実力派、としてしまうと、分かりやすいけれど、構図をやや単純化し過ぎか。もっと音楽シーンならではの要素を加えると良いかと。 それにしても、作者さんのAKBカミングアウト……笑えました。 特別賞：AKB48が嫌いで賞 from X 班（AKB48を嫌っている感じが伝わった）		
03	きょうの運勢	0 pt	10 位	2 sp
		日常のなかに不意に差し込まれた禍々しい予兆。 風景までが不吉に赤黒く。まさにセカイ系ドラマの始まりのようなわくわく感です。 なるほど実体験ベースですか。道理でリアリティ◎。 特別賞：大吉出るまで引け賞 from Q 班（そんなに悔しいなら大吉出るまで頑張ろう！もしくは明日に期待）おみくじ賞 from Y 班（大凶になったものを見たい）		
04	しあわせは音符のかたち	10 pt	2 位	0 sp
		連弾の調べがいつまでも響いているような典雅な仕上がります。 僕にはピアノしかないっ——弟さんの真摯な叫びが共感力大でした。長文の嵐のなか、みごとに突き抜けてきましたね。おめでとうシルバー・メダル!!		
05	街頭アンケート実施！「もし世界が終わるなら？」	9 pt	3 位	0 sp
		世代ごとに反応を分けた発想がユニークで、あたかも人生の縮図を見ているかのよう。 発想のユニークさが評価されてブロンズ・メダルと今週のイチオシフリーズ大賞受賞です。ついでに先週のリベンジもできましたね！おめでとう!! イチオシフリーズ：「10代の回答「いやだ」「回答「なし」」×2		
		7 pt	5 位	1 sp

06	15年の言葉	そうして人は越えられそうになかった悲劇も越えてゆく。 妻の死という悲劇をいったん越えたところで語られているので、読み手も安心して一緒に苦難を回顧できます。 なるほど、この書き手さんの永遠のテーマは「家族」なのですね、良く分かった（かも）。 特別賞：おそろくつづくで賞 from V班（つづく） イチオシフレーズ：「早く起きて朝ご飯べよう（14音節） 父さん会社に遅刻しちゃうよ（15音節）」			
07	GIVE ME NOT ONE PIECE, BUT ONE PEACE	<table> <tr> <td>0 pt</td><td>10 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> タイトルがとてもおしゃれで、それだけでぐんと作品の装いが上がります。むしろタイトルを先に発想した？ 世界を次第に色づかせつつ、じつはジグソーパズルです、と身近なところへぐっと引き寄せる視点移動が楽しい趣向でした。 イチオシフレーズ：「・・・はあい・・・。」 「燃えるリコリスのような赤」	0 pt	10 位	0 sp
0 pt	10 位	0 sp			
08	御年十七歳 夏の悪夢	<table> <tr> <td>4 pt</td><td>7 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> 長〜い言い訳。ユーモラスなオチ。 おなかばくはつ、ラクになる。なるほどね。 映像が見えるように、あざやかな描写力でした。ただ、ラストを太字にすると、そこから読んでしまうのでちょっと工夫すると良かったかも。 おふとんオチがウケて、今週のイチオシフレーズ大賞です。おめでとう！ 特別賞：おね賞 from S班 イチオシフレーズ：「野須虎 情無須」「腹部下方がふくらみ、破裂しそう」「言い訳はいいからさっさと布団洗って干しなさい！」	4 pt	7 位	1 sp
4 pt	7 位	1 sp			
09	無題（あなたと二人だけの・・・）	<table> <tr> <td>11 pt</td><td>1 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> さらりと仕掛けられたヨコヨミストーリー。 「糸」＋「冬」なんて入れ方が気が利いてますね。 雨だれのように、ぼつりぼつりと語られるフレーズが、さみしさを連れてきます。 ゆったりと朗読で聴きたいような。内容とヨコヨミがきれいにシンクロして、1票差の激戦を勝ち抜きました。おめでとうゴールド・メダル!! 特別賞：ツメが甘いで賞 from Z班（「界」まで頑張ってたほしかった）	11 pt	1 位	1 sp
11 pt	1 位	1 sp			
10	『セカイ系』	<table> <tr> <td>1 pt</td><td>9 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> 東さんという「中間項」が良く機能して、とても説得的な緻密な展開です。 ちょっと長くて、この位置だと読んでもらいにくかったかも。そこが不運でした。 筆者の意見が最終段落だけ、というのは、もったいないなあ。前半削ってでも入れたい。 イチオシフレーズ：「セカイ系」	1 pt	9 位	0 sp
1 pt	9 位	0 sp			
11	最後の音	<table> <tr> <td>6 pt</td><td>6 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> しーん。 満員電車が無人電車になってしまったような。 みんな隣人が鬱陶しいと思ってる。でもね。。。そん	6 pt	6 位	1 sp
6 pt	6 位	1 sp			

な文明諷刺だったでしょうか。
狙って取った裏表紙、まさに職人ですね。
特別賞：裏表紙賞 from W班（いかにも……）

さよなら

